

# 札幌市議団ニュース

2011年10月20日 No.46

日本共産党市議団事務局発行  
電話 211-3221 FAX218-5124

## 第3回定例議会 決算特別委員会・論戦特集 ④

### <宮川議員>

## 活用されずに貯めこまれている 基金は市民負担の軽減のために

22 ある札幌市の基金残高は、2010年度末で2543億円と膨大になっています。党市議団はこれまでも、基金については“市民福祉に幅広く活用すべき”と求めて来ました。

宮川議員は、まず「200億円とする」(08年)と決めていながら積極的に活用されずに貯めこまれている土地開発基金(670億円)の問題を取り上げ、「土地開発公社が抱えている、いわゆる塩漬け地の処分につき込むのであれば問題だと思うが、どのような活用を考えているか」と質しました。

村山財政部長が「収支不足解消と『新まちづくり計画』の財源確保のために130億円の活用を予定している。『200億円』については後処理を念頭に定めたものではなく、土地の取得のために使う」と答弁しました。

宮川議員はつぎに「街づくり基金(229.7億円)、取り崩して活用すべき基金として建設計画のない高速鉄道基金(8.9億円)がある。これに限らず22基金全体を見直し、市民福祉のために有効活用すべきと思いますが、どの基金の取り崩しを行おうとしているのか、具体的に明らかにしてください」と求めました。

村山財政部長が「不透明な財政状況がつづくもとの蓄えという面もあるので使い方は慎重にしたい。具体的には土地開発基金130億円、まちづくり推進基金とその他で80億円の取り崩しを考えている。その他は5基金はスポーツ振興、環境保全、文化芸術振興、地下鉄、リサイクル推進基金となる」と答弁したのに対し、宮川議員は「スポーツ振興、環境保全、文化芸術振興、リサイクル推進など必要な取り組みに支障をきたさないようにすべき。草刈のための霊園28億円には触れられなかったが、基金全体の見直しが必要です。ぜひ市民負担の軽減のため積極的な活用すべきこと」を強く求めました。(10/12)

### <坂本議員>

## 立ち遅れている水道管の耐震化を急げ!

阪神淡路大震災を契機に管路や配水池などの耐震化が進められ、水道管の耐震化は10年度末で17.8%と、立ち遅れは歴然としており、スピードアップが強く求められています。

坂本議員は、この問題を取り上げ「本市の水道管路の総延長は5900kmと膨大であるが、耐震化は、'09年度から1年間で1%＝13kmしか伸びていないが、なぜ耐震化が進まないのか」と質しました。

⇒ 裏面につづく

小田配水部長は「耐震化は、重要な配水幹線などを優先して行なっている。ダクタイル鋳鉄管は、耐震性の高いものと判断している。また市街地全域を網の目構造で配管している」という答弁にとどまりました。これに対し坂本議員は「やはり耐震化率を基準に考えるべきだ」と強く求めました。

つぎに坂本議員は、水管橋の耐震化を取り上げ、'09年決特での我党の質問に「'12年度までに重要度の高い32橋の耐震化をすすめる」との答弁であったが、現在までの進捗状況はどうなっているか。また、東日本大震災後の想定震度6強→7変更に伴う今後の耐震化補強方針についての考え方はどうか」と質問。

小田配水部長の「耐震化が必要で重要度の高い32橋のうち18橋が完了、'14年度までには耐震化を終える予定。想定震度7対応については、耐震化済みのものを含め更なる耐震化に向け再度検討する。また、耐震化の対象としていない準幹線128橋も重要な施設と位置づけて、耐震診断、耐震化に向けた検討をしたい」との答弁に対し、坂本議員は「早くハッキリさせてください。近年、全国各地の地震で水道管路の破損が目立つ。水道管路は代替機能が少ない、一日も早く耐震診断、耐震化着手を」と強く求めました。(10/14)